

THE

Special Thanks ファイブオーシャン

Photo&Text 古見きゆう

Design Tomato



沖縄本島「本部町」。

島の西岸を北上していくとコブ上に飛び出たところが本部半島。

近年絶好のダイビングポイントとして知られるこの海は、
それぞれ海底環境が全く異なる瀬底島、水納島、伊江島へアクセスが可能だ。

マクロ、癒しの砂地、豪快なドロップオフ、

どんなダイバーが潜っても楽しめる魔法の三角地帯、本部。

満を持してWEB-LUE初登場!

WONDER

伊江 + 瀬底 + 水納 =

TRIANGLE

沖縄本島

本部



Information Link
<http://www.fiveocean.presento/>

← [click!](#) 関連情報HPへ

瀬底大橋から眺める景色は最高です

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Web-lue 2008. Autumn

伊江

巨岩奇岩によって構築された海底要塞

芸術作品とも思えるような伊江島の地形群。カナン岬ドーム

Motobu-Ie

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

伊江+瀬底+水納=本部
THE WONDER TRIANGLE
Web-lue 2008. Autumn



Information Link
<http://www.fiveocean.presen.to/>

← 関連情報HPへ

伊江



01



03

- 01/人気のピグミーもスタンバイしています
- 02/実は黄色い子も居るんです。じっくり探してみましょう
- 03/ハナミノカサゴが高台からダイバーを見物していました
- 04/アデヤカゼブラヤドカリ。大きな穴やオーバーハングに居ます

02



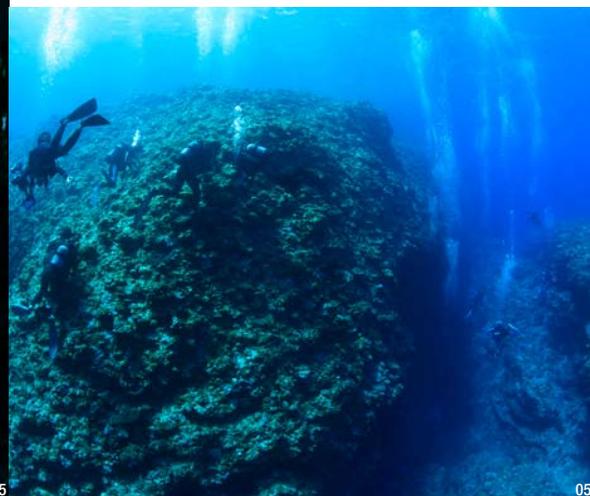
04

- 05/奇岩と高野さんを撮るMr.オチ
- 06/群青色の海底は抜群の透明度を誇る



巨岩奇岩によって構築された海底要塞

05



05

本部港を出発して30分程走ると伊江島のシンボルといえるタッチューが近づいてくる。ボートがポイントに近づくと連れて水の色も淡いパステル調の色から、鮮やかな濃紺に変わって行く。伊江島の海にエントリーすると目下に広がるのは見事なまでに豪快に立ち上がったドロップオフ。30mは楽に見えるだろうか？目が覚めるようなブルーに包まれながら断崖を飛ぶように泳ぐ。光芒と一緒に海底に吸い込まれていきそうな、何とも言えぬ感覚だ。

横穴、縦穴、洞窟、水路。あらゆる穴で遊びまわっていると、ガイドの高野さんが「こちこち」のサイン。赤い枝ぶりの良いヤギには極小のピグミーシーホース、隣の黄色いヤギにはイエローのピグミーちゃん。こんな近くに色違いのピグミーシーホースがいるんですね。伊江島恐るべし。しかし目が慣れてくるとここは豪快な地形だけではなく、マクロの被写体も次々に見つかるのである。アデヤカゼブラヤドカリなど美しいヤドカリも、ガイドが前もって見せてくれた環境を探してみるととても簡単に見つかってしまうし、ウチワヤヤギ、カイメンなども覗いてみればハゼやカニやらウミウシやら、ポロポロと自分で発見できる。ダイビングの前半は地形を楽しみつつ後半はマクロウォッチング。なんて贅沢なポイントなんでしょうね。

瀬底

フォト派垂涎のマクロワールド



「TEGURI」の美しいユビエダハマサンゴの群生

Motobu-Sesoko

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製・二次使用を禁じます

伊江+瀬底+水納=本部
THE WONDER TRIANGLE
Web-lue 2008. Autumn



Information Link
<http://www.fiveocean.present.to/>

←関連情報HPへ



瀬底

本島本土から瀬底大橋によって繋がる瀬底島。ファイブオーシャンの船が出港する本部港から目と鼻の先。船があんまり得意じゃないという船酔いダイバーも安心の距離感だ。この瀬底島では腰を据えてマクロ生物を楽しみたい。ハゼがお好きな方にお勧めなのが港から一番近いポイント「唐泊」(とうまい)。比較的深場に住んでいるはずのヤシャハゼやヒレナガネジリンボウ、ヤノダテハゼなどなど人気どころなんと12m程の超浅場にすむ規格外ポイント。個体数も多いし、人慣れもしているので撮影し易さ抜群なのである。アンカーのすぐ下にはトウアカクマノミのコロニーもある。じっくり撮れるのが何よりも嬉しい。

そして今回は非触れておきたいのが「ラビリンス」などのちょっと深場の生物達。ガイドの高野さんに導かれズンズンと沖を目指して進む。辿り着いた先はキメの細かい砂泥底。砂を巻き上げないように慎重に着底し辺りを見回す……。すると居るわ居るわ。スジクロユリハゼ。少し暗い海底にメタリックなブルーがそこら中で輝いている。夢中になって撮影するカメラマン。次々とアカオビサンゴアマダイ、アケボノハゼの幼魚、ズグロダテハゼ、ピンクダートゴビー



などなど発見してくれる高野ガイド。こんなにまで普段からリサーチをしているとは……。やはりガイドの力は偉大です。そして今回もう一つ驚いたこと。高野さんがおもむろに「スミレナガハナダイのオスが凄くいっぱい固まって群れているんだけど、あれって綺麗に撮れないかなあ」とポツリ。

そんなこと言われたら行くしかないじゃないですか!という訳で行ってきました見えましたスマレの群れ。写真は後の越智さんページに載せませんが、本当に凄かった。あんな光景初めて見ました。本部には何度も通って来ているが、まだまだ未知の世界があるんですね。本部恐るべし。

フォト派垂涎のマクロワールド



- 01/アケボノハゼの幼魚に初めて出会いました
- 02/オオモンカエルアンコウとヒトデ。擬態しあっているんでしょうか? (ラビリンス)
- 03/せっせと卵の世話をするトウアカクマノミ。(唐泊)
- 04/なかなか洒落た背景が好みのセボシウミタケハゼ (STF)
- 05/サンゴの群生も年々大きく育ってきました。(STF)
- 06/深場の貴公子ピンクダートゴビーなんかもいっぱいいます。
- 07/鮮やかな赤線が目印のアカオビサンゴアマダイ
- 08/チャツボボヤに擬態しているつむりのヒナギンボ。い、色が違う……





水納

極上の安らぎがここにある。

水納島の水の色は船上から眺めるだけで幸せになれる

Motobu-Minna

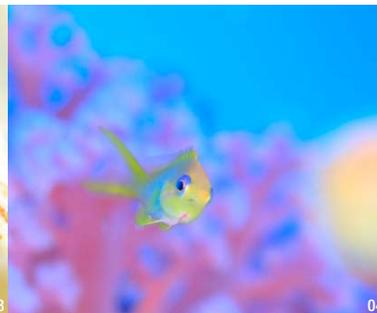
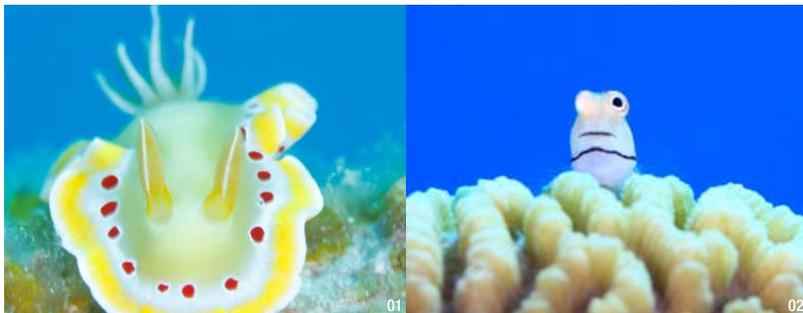
©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

伊江+瀬底+水納=本部
THE WONDER TRIANGLE
Web-lue 2008. Autumn



Information Link
<http://www.fiveocean.presen.to/>

←click! 関連情報HPへ

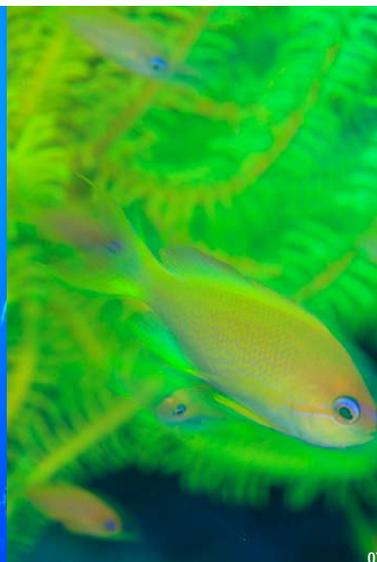


01/アカテンイロウミウシ。水納島のバステルブルーに良く映えます
 02/イシガキカエルウオも気持ち良さそうです
 03/遂に本部にもナカモイロワケハゼが出現しました
 04/沢山いるキンギョハナダイもフォトジェニックです
 05/でっかいアカウミガメが太陽に向かって泳いでいました
 06/小ぶりの根にハナダイが乱舞する水納の光景
 07/水納ではウミシダやトサカを利用して写真を撮ってみたい
 08/いや〜。理屈抜きに気持ちいですよ



極上の安らぎがここにある。

水納



そして最後に紹介するのが水納島。上空から見た形がそう見えるので、別名クロワッサンアイランドとも呼ばれている小さな可愛い島である。この島周辺のポイントの特徴はまず水底が真っ白な砂地で、ハナダイが群れるパッチリーフが点在し緩やかなスロープが沖に向かって延びているという感じ。ここの水の色を例えるならばラムネ色。実際に潜ってもらえればわかるのだが、本当に明るい淡い青。熱い沖縄の太陽を白い水底が跳ね返し下手をすれば陸上よりも明るいかも?とってしまうほどだ。

基本となるのは砂地の生物。ここでもヤシハゼなどは抜群にアプローチし易いイイ奴揃い。最短撮影距離目指してジリジリ寄ってみてはどうだろうか?取材時に人気を集めたのがヘガサスの英名を持つウミテング。個体数はかなり多らしく複数のオスが一匹のメスを巡って争っている姿が子供の頃遊んだ紙相撲のようで可愛らしかった。彼等はかなり真剣なのでしょうが…。

そして今回のサプライズな出会いがなんと言ってもナカモイロワケハゼ。愛らしいイエローの体にグリーンの円らな瞳。空き瓶の中に産み付けられた卵の世話をせせとする姿はなんとも可愛い。優しい水色に包まれて可愛いお魚と戯れる。心までも癒される天然海エステサロン、水納島。極上の癒しの空間をお試しあれ。

01/そろそろ仲直りしましょか？
02/兄さん、ちょっと聞こえています？



01



02



撮本 きゆう的 影部 う的 術

何を隠そう僕は一年のうちに数回は必ず本部を訪れているハードリピーターである。なぜにこんなに本部に惹きつけられるのか？それは僕の撮影スタイルというか撮影の好みが本部の海にバッチリはまるからだろう。僕は例えばマクロ撮影であっても「何かと何か」を一緒に撮るとい一つのテーマを持っている。「何か」というのはハッキリ言って何でも良い。スズメダイ、ハゼ、ウミウシ、ギンポ、甲殻類…。何でも良いのだが、その彼らが自然の中で作り出す空気感、距離感、関係性、思考と撮影者側の視点を動きのある一枚の写真で表現したい。そういう意味でも本部の海は非常に写真が撮りやすい。各島ごとに特徴は全く違し、何より生物が多いからこそ「何かと何か」というような写真を比較的簡単に撮ることが出来る。そ

れらは代表の高野さんを筆頭するファイブオーシャンのガイド陣の眼力や調査努力によって導き出されている結果なのだろう。そして何よりもファイブオーシャンは「あれ撮って！これ撮って！」というスタイルではなく、のほほんと、放置というかある程度自由に潜らせてもらえる空気が心地よい。僕にとっては沖縄のホームゲレンデとも言える本部の海。「帰ってきた」と思える、居心地のいい海ってやっぱりいいですね。



03



04

03/卵の世話が忙しいんで、後にしてもらえます？
04/とぼけた顔してババンバン



05



06

05/私、逆さまでしょ何か？
06/あっちだけ！こっちじゃない？



07

07/ウミシダが無いと生きていけないんです

ヒトスジギンポの気持ち。私も華麗に泳ぎたいです

Motobu

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

伊江+瀬底+水納=本部
THE WONDER TRIANGLE
Web-lue 2008. Autumn



Information Link
<http://www.fiveocean.presento/>

←関連情報HPへ

ファイブオーシャンで潜った、
本部周辺の海

越智隆治 >>> ファーストインプレッション

水深40mのスロープに群れなす、スミレナガハナダイのオスに唖然！

伊江+瀬底+水納=本部
THE WONDER TRIANGLE
Web-lue 2008. Autumn



ファイブオーシャンで潜った、本部周辺の海 越智隆治>>>ファーストインプレッション

「水中カメラマンで、本部と一緒に潜ったこと無い人は珍しいですよ」と最初に言われた。それだけ、ファイブオーシャンのオーナーガイドの高野さんは、多くの水中カメラマンに、この海を紹介してきている。

また、多くのプロ水中カメラマンやアマチュアカメラマンが、本部をホームグラウンドにして潜っているのは、この海に被写体としての魅力が沢山備わっているだけでなく、その魅力を的確に提供するファイブオーシャンのスタッフの、水中撮影に対する理解度の大きさにあると感じた。

高野さんは、「俺たちについて来い！みたいな、ガイド主体じゃない、あくまでさり気なくゲストのケアをしていく、そんな店作りができれば」と語る。そのさり気無さが、水中撮影をするゲストへの配慮にも生きている。ゲストが撮影に満足するまで、彼らは次の被写体を考えながらも、先へ先へとゲストを促すことはほとんどしない。

今回、一緒に潜った古見カメラマンも、またこの海をホームゲレンデのように潜っているプロの一人だ。それだけに、彼の撮影は僕自身大いに参考になったし、関心させられた。今まで、彼がここを訪れたのは、ほとんど雑誌の取材だったのだけど、シーズンのにもベストシーズン前ということもあり、天候にあまり恵まれていなかったようだ。

しかし、その悪天候が彼の写真に、独自の世界観（オリジナリティ）を生み出すことになったようだ。今回はそん



信じられないくらい図太い神経のヤシャハゼ

な古見カメラマンの独自の世界観で本部の海を紹介している。しかし、僕も一緒に潜ったので、ほんの少しだけ、特に自分が印象に残った本部の海をいくつか紹介したい。

*

まず、本部に来て自分で一番確認したかったのは、「沖縄の他の場所に比べて、水納島のハゼは、寄り易い」という噂。ヤシャハゼやヒレナガネズリンボウなど、他では結構苦労して撮影していたので、期待してマーメイドというポイントに潜った。早速ヤシャハゼを見つけようと、海底に這いつくばり、息を殺して、慎重にジリジリとにじり寄って行った。

かなり接近して撮影する。パシャ！シャッターを切り、ストロボが光る。まだ引込まない……。ジリジリ、パシャ！……まだ引込まない。もう少し、ジリジリ、パシャ……、あれ？まだ引込まない……。よーし、もう少し、ジリジリ……、あれ？ピン트가合わない。

気がついたら、100ミリマクロの最短撮影距離の30センチよりも接近してしまい、ピン트가合わせられない距離まで寄っても、まだ巣穴に引込まなかった。

噂には聞いていたけど、ヤシャハゼがこれほど図太いとは……。ヒレナガネズリンボウもヤシャハゼほどではないけど、かなり接近して撮影することができた。

「夏は、特に寄り易いんですよ」と高野さんが教えてくれた。水温の関係なのか、なんなのか？ハゼも暖かくて、気が緩んでいるのだろうか。

豪快な地形がウリの伊江島では、高野さんや古見カメラマンをモデルにして、地形を撮影した。天気もよく、透



ハングオフの天井にたまったエアが鏡のようになり、写り込むウミウシ

明度も高く、巨大で複雑な地形をワイドで撮影するのは、最高のコンディションだった。

ここで、多くのウミウシを発見。中にハングオフの天井部分に、ダイバーが吐き出したエアがたまった場所近くでウミウシが移動していた。ちょっと角度を変えて色々見ているうちに、そのエアの部分ミラーのようになって、ウミウシを映し出していたので、体勢がつかなくなったけど、ちょっと撮影してみた。伊江島には、こういうハングオフの場所が多いから、こんな撮影も面白いかもしれない。

*

そして、最後にとっておきの場所に案内してくれた。何度も訪れていた古見カメラマンもまだ潜ったことが無いというポイントだ。それが瀬底島のラビンスの水深40m付近のスロープに群れるという、スマレナガハナダイ。群れているとは言っても、最初に高野さんの話を聞いただけでは、あまりピンときていなかった。「フィッシュアイでも行けますよ」という言葉に、半信半疑。僕はとりあえず17～40ミリのズームレンズを装着して、エントリーした。

エントリーポイントから多少距離があるので、ちょっと透明度の悪い中層を沖へ向かってしばらく移動し、何を目印に深度を下げたのかかわからないのだけど、ピンポイントで潜行を始めた。

しばらくすると、眼下に、赤い魚の群れが見えてきた。「うわ！本当に群れてるよ。こんなにスマレナガハナダイが群れているの見たこと無い！」もう、そう思った途端に、僕は撮影戦闘態勢に入っていた。

いくら群れているとはいえ、一人で撮影したのでは、な



空にぽっかり浮かぶちぎれ雲は沖縄以外ではあまり見ることはない

かなかスマレナガハナダイをまとめて撮影することは困難だ。事前に打ち合わせしていた通り、両サイドから、高野さんと古見カメラマンがハナダイを追い込んでくれて、まとまった瞬間を狙って撮影を試みた。薄暗い海底で、群れなすスマレナガハナダイの真紅の体色がいかに鮮明に目に焼きついたことか。

古見カメラマンには、申し訳ないと思いつつ、早々に撮影を済ませて、追い込み作業を彼と交代して撮影してもらった。しかし、2番手だったこともあり、なかなか上手く撮影できなかったようだった。エキジツしてからの、彼の表情からも悔しさが読み取れた。水中カメラマンとしては、当然のことだ。後日、彼の強い希望で、再度このポイントに潜ったのは、言うまでもない。それほど、衝撃的なシーンだった。

*

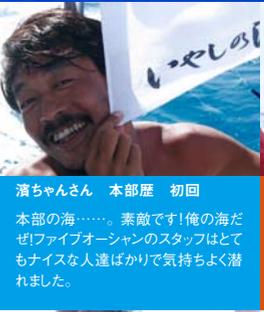
「どうせ取材に来るならベストシーズンに」と高野さんが薦めてくれた、2008年7月下旬。少し前に通過した台風の影響で風があった日もあったが、概ね晴れ。しかも、風が回ってくれたおかげで、全てのポイントに潜ることができた。

そして沖縄の夏を強く印象づけるのが、青い空に浮かぶ、真っ白な雲。特にぽっかりと浮かぶかわいらしいちぎれ雲は、色々なディステーションに取材に訪れているけど、他では見たことがない。かなり昔、まだ自分が学生の頃に訪れた沖縄で、知り合ったかわいらしい、女の子と別れるときに撮影した記念写真。笑顔でカメラを見るその子の頭の上には、ぽっかりとちぎれ雲が浮かんでいた。

あれ以来、僕の頭の中に連想される沖縄の第一番目に来るのは、空にぽっかりと浮かぶ、かわいらしいちぎれ雲。その雲が見ただけでも、夏の沖縄に来てよかったな～と、感じた。

伊江+瀬底+水納=本部
THE WONDER TRIANGLE
Web-lue 2008. Autumn

GUEST VOICE in Motobu



安藤 由貴さん 本部歴 初回
時間の流れがのんびりしている感じがします。1本ごとにショップに戻ってこれるのは本当に助かります。夜の飲み会はちょっと注意かな？(笑)



遠山 勝彦さん 本部歴 3回
瀬底島、水納島、伊江島の3島を満喫できる贅沢な場所です。パリエーションが豊富な海なので、いろんなニーズに答えられるスバラシイ海ですね！スタッフは本部の海を知り尽くし、あらゆるゲストのニーズに答えてくれます。今回もビギナー〜ベテランまで、あらゆるゲストが訪れていました。それが答えですね！あとランチ最高です！



崎谷 あゆみさん 本部歴 多数
本部はワイドもマクロも飽きない海ですね！スタッフ全員のレベルが高いと思います。

新井 直久さん 本部歴 6回
本部は本当になんでもあるマルチな海ですね。ファイブオーシャンはいつも安全に楽しく潜らせてもらえるので信頼しています。

筋 由衣さん 本部歴 7回
思い出たさんの海です。ファイブオーシャンの愛犬バズが可愛い！

大嶋 清華さん 本部歴 10回
自分が自分らしくいられる海で、沢山の素敵なダイバーと出会える場所です。ファイブオーシャン大好きです！

石田 勉さん 本部歴35回
本部の海はファンタジー！ファイブオーシャンはグレイテスト!!

山本 由美子さん 本部歴 2回
マクロとワイドと両方楽しめるのが嬉しいです。ファイブオーシャンは店が広くて施設が充実してますねー！



田嶋 雅江さん 本部歴 2回
水納島の浅場の珊瑚が想像以上に育っていてシュノーケリングでも楽しむことが出来ました。大きく育てて欲しいです。スタッフとゲストの方々の雰囲気も良く、とても居心地の良いショップでした。また行きたいです。

フェニックスよしほさん 本部歴 507回
本部は安心して、のんびり、ま〜ったり楽しめる気軽さがありますね。ファイブオーシャンはガイドの質や人柄が良く、お客様の笑顔が絶えないお店です。

松本 真由美さん 本部歴 98回
3年前にファイブオーシャンと出会いました。私のダイビング人生を変えたぐらゐ素敵な出会いでした。これからこの出会いを大切にしたいと思います。

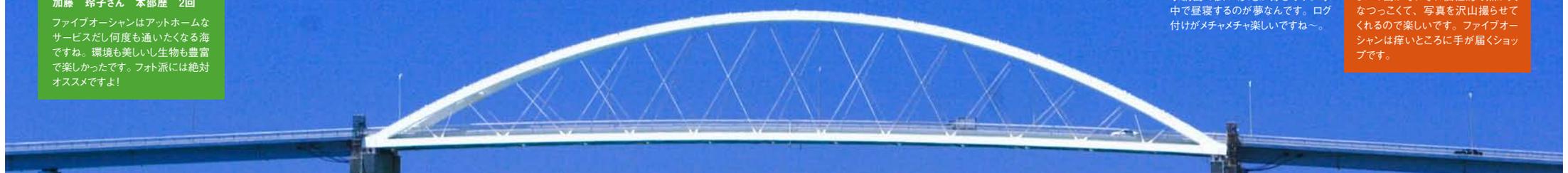
関根 勉さん 本部歴 初回
マクロも地形も楽しめる海ですね。ボートの使い勝手もよく、レベル分けした少人数グループで潜らせてもらえるので安心できました。1本ごとにショップに戻るのも嬉しいです。

竹川 真生さん 本部歴 0W講習中
海が綺麗で今から潜るのが楽しみです！今回初めて来たのですが色々なゲストと仲良く出来ました。

五十嵐 絵里子さん 本部歴 2回
水納島の広い砂地が好きです。水中で昼寝するのが夢なんです。ログ付けがメチャメチャ楽しいですねー。

伊東 あゆみさん 本部歴 13年
3つの島がそれぞれ個性的で魚が人なつこくて、写真を沢山撮らせてくれるので楽しいです。ファイブオーシャンは痒いところに手が届くショップです。

加藤 玲子さん 本部歴 2回
ファイブオーシャンはアットホームなサービスだし何度も通いたくなる海ですね。環境も美しい生物も豊富で楽しかったです。フォト派には絶対オススメですよ！



伊江+瀬底+水納=本部
THE WONDER TRIANGLE
Web-lue 2008. Autumn



素朴な町 本部で感じる沖縄のスナップ集



01/ 備瀬のフク木並木。古き良き沖縄の姿がここにあります 02/ 町を歩くといろいろな表情のシーサーを見かけます 03/ 3、2、1、ダァ~~~~!! 04/ サトウキビと青い空。沖縄の匂いが充満してます 05/ 崎本部名物ゴリラチョコップ 06/ こんな玄関の家に住んでみたいです 07/ 高台から水納島を眺めてみました 08/ 突然のスクール後には虹の祝福がありました 09/ 本部に根付いて20年。パイオニアのファイブオーシャン 10/ 誰が来ても楽しませてくれる。全てにおいてレベルの高いガイド陣

ダイビングスタイル

基本午前1本、午後1本の2ダイブ。店の目の前の本部港から乗船出航し、毎ダイブのインターバルにはショップに戻って休憩を挟む。行くポイントは海況や生物出現状況などを考慮してスタッフが当日判断する。全てのダイビングポイントで船はアンカーリングされるので、潜降浮上はロープを持ちながらゆっくり行うことが出来るのでビギナーでも安心だろう。自己管理が出来ることを前提に、ゆっくりと撮影を楽しみたいというフォト派は、その旨を事前に相談しておけば、水中でも適度な放置プレイガイド(?)で潜らせてもらえるだろう。

アクセス

各地从那覇空港まで。那覇空港からファイブオーシャンの送迎車に乗り込み約90分でショップに到着する。早朝の便で各地を出発しておけば到着日の午後から2ダイブすることは十分に可能である。

Shop Information ファイブオーシャン

創立20周年を迎えた本部の老舗ダイビングサービス。二隻のダイビングボートを駆使し、伊江島、水納島、瀬底島を縦横無尽に駆け抜ける。数多くの水中カメラマンから厚い信頼を集める代表の高野さん、本部ガイド歴10年のマネージャーの滝村さんを筆頭に親切でキメ細やかなガイド陣が揃う。プロフェッショナルからビギナーまで様々なダイバーに愛され圧倒的な支持を受ける人気サービスだ。美味しい沖縄家庭料理のランチは絶品。宿泊施設併設。店内無線LAN完備。予約は電話やHP内の予約フォームから行うことが出来る。



〒905-0225
沖縄県国頭郡本部町字崎本部4755-1
TEL 0980-47-3022 FAX 0980-47-2085 <http://www.fiveocean.present.to/>

伊江+瀬底+水納=本部
THE WONDER TRIANGLE
Web-lue 2008. Autumn



Information Link
<http://www.fiveocean.present.to/>

← 関連情報HPへ